


北区人口推計調査報告書

—概要版—

— 目 次 —

1. 総人口の推移
2. 7地区別人口の推移
3. 年齢3区分別の人口推移
 - (1) 人口の推移
 - (2) 人口比率の推移
4. 人口ピラミッド
5. 世帯数の推移

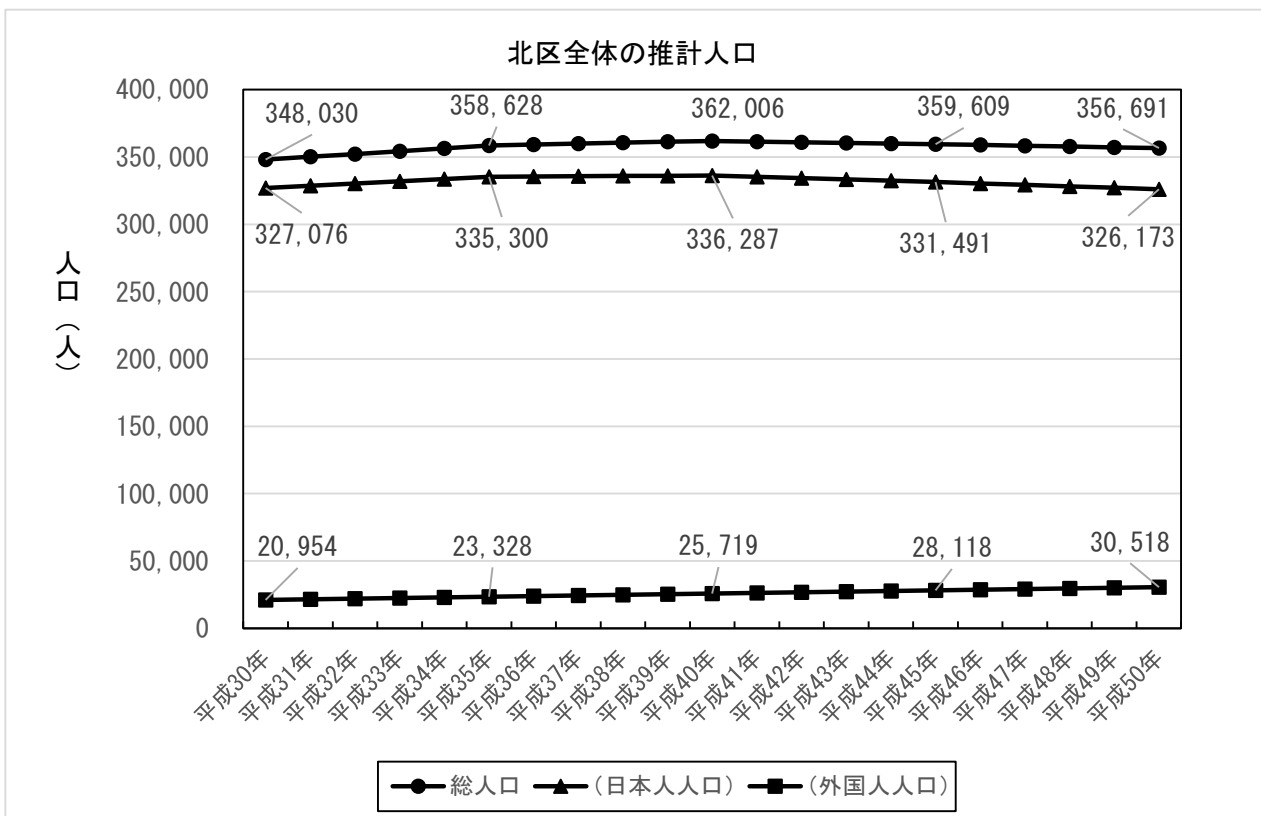
平成30年3月

 東京都北区

北区将来人口の推計の概要

1. 総人口の推移

- 北区の総人口の推移を見ると、平成 30（2018）年に 348,030 人であった人口は、10 年後の平成 40（2028）年の 362,006 人をピークに、その後減少局面となり、20 年後の平成 50（2038）年には 356,691 人へと減少（平成 30（2018）年比 8,661 人増、2.5%増）する。
- 北区の日本人人口推移を見ると、平成 30（2018）年に 327,076 人であった人口は、10 年後の平成 40（2028）年の 336,287 人をピークに、以降は減少局面となり、20 年後の平成 50（2038）年には 326,173 人へと減少（平成 30（2018）年比で 903 人減）する。
- 北区の外国人人口は、平成 30（2018）年に 20,954 人であった。日本全体として、外国人入国超過数の増加が見込まれることから、北区においても増加を続け、平成 50（2038）年には 30,518 人（平成 30（2018）年比で 9,564 人増）となる。
- 全国の総人口は平成 28（2016）年に 126,933 千人、平成 29（2017）年に 126,724 千人（概算値）と 2 年連続で大きく減少している。一方、東京都の総人口は平成 37（2025）年の 13,979 千人をピークに、その後減少に転じると予測される。（全国の総人口は総務省の人口推計（各年 10 月 1 日）、東京都の将来推計人口は、「東京都市区町村別人口の予測」（平成 29 年 3 月）による。北区については今回調査に基づく推計。）



2. 7地区別人口の推移

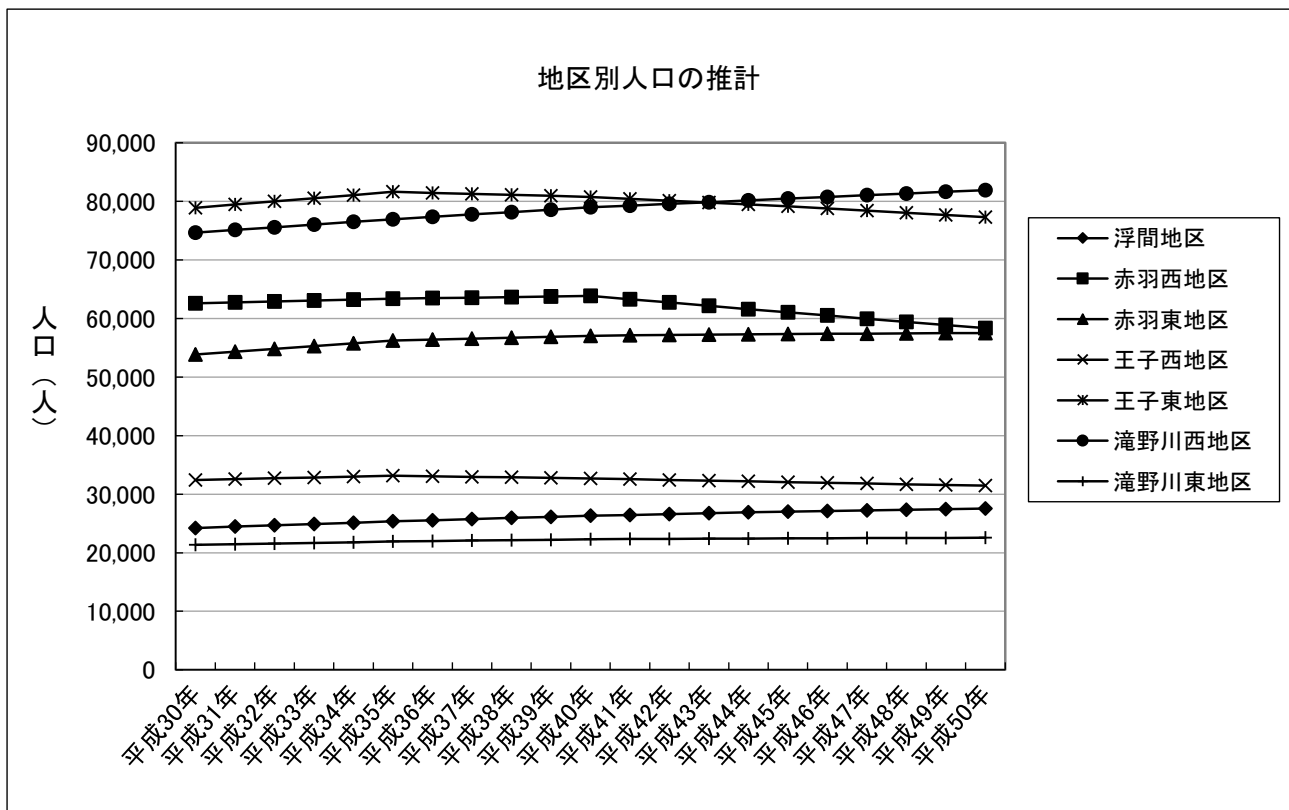
○平成30(2018)年～平成50(2038)年の20年間を見ると以下ようになる。

ほぼ横ばいの地区：滝野川東地区

増加から減少へ転じる地区：赤羽西地区、王子西地区、王子東地区

増加で推移する地区：浮間地区、赤羽東地区、滝野川西地区

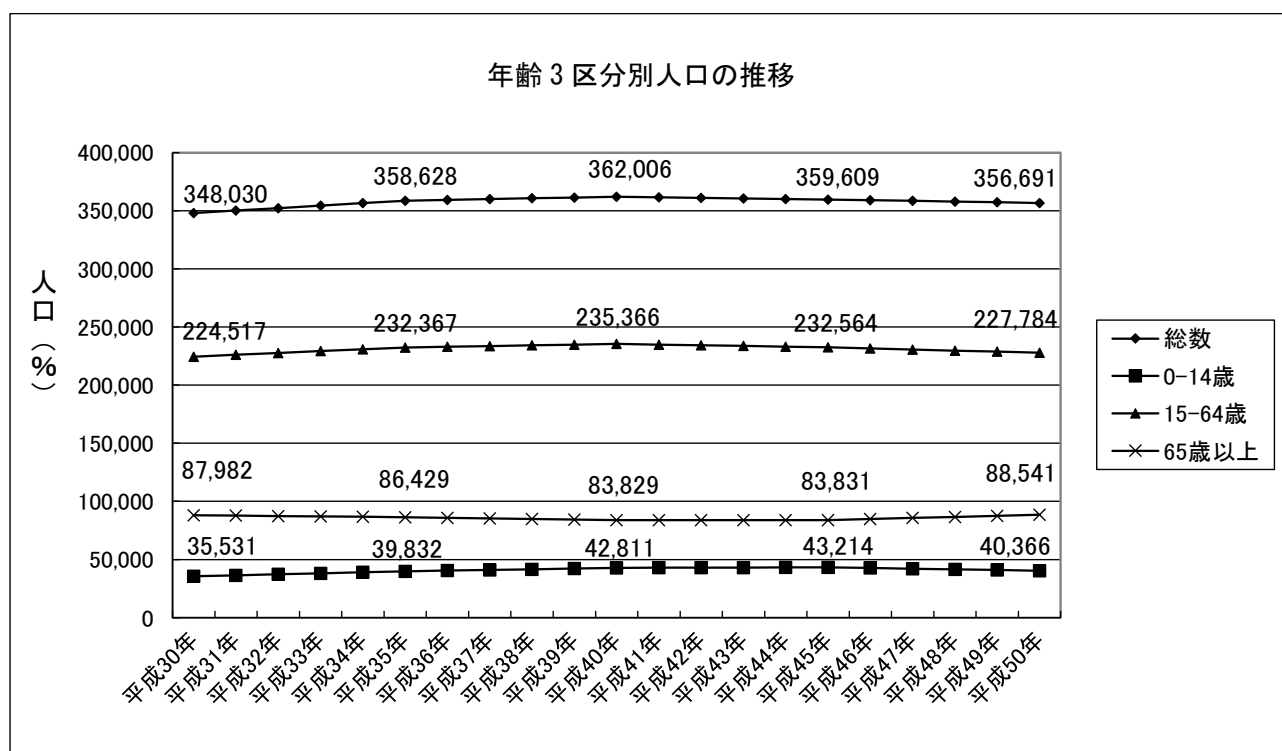
	平成30年 2018	平成35年 2023	平成40年 2028	平成45年 2033	平成50年 2038	平35/30 増減率	平40/35 増減率	平45/40 増減率	平50/45 増減率	平50/30 増減率
浮間	24,217	25,358	26,314	27,031	27,561	4.7%	3.8%	2.7%	2.0%	13.8%
赤羽西	62,613	63,370	63,864	61,052	58,346	1.2%	0.8%	-4.4%	-4.4%	-6.8%
赤羽東	53,869	56,242	57,062	57,364	57,521	4.4%	1.5%	0.5%	0.3%	6.8%
王子西	32,412	33,145	32,706	32,056	31,453	2.3%	-1.3%	-2.0%	-1.9%	-3.0%
王子東	78,921	81,634	80,767	79,179	77,324	3.4%	-1.1%	-2.0%	-2.3%	-2.0%
滝野川西	74,658	76,963	78,989	80,482	81,919	3.1%	2.6%	1.9%	1.8%	9.7%
滝野川東	21,340	21,916	22,304	22,445	22,567	2.7%	1.8%	0.6%	0.5%	5.7%
計	348,030	358,628	362,006	359,609	356,691	3.0%	0.9%	-0.7%	-0.8%	2.5%



3. 年齢3区分別の人口推移

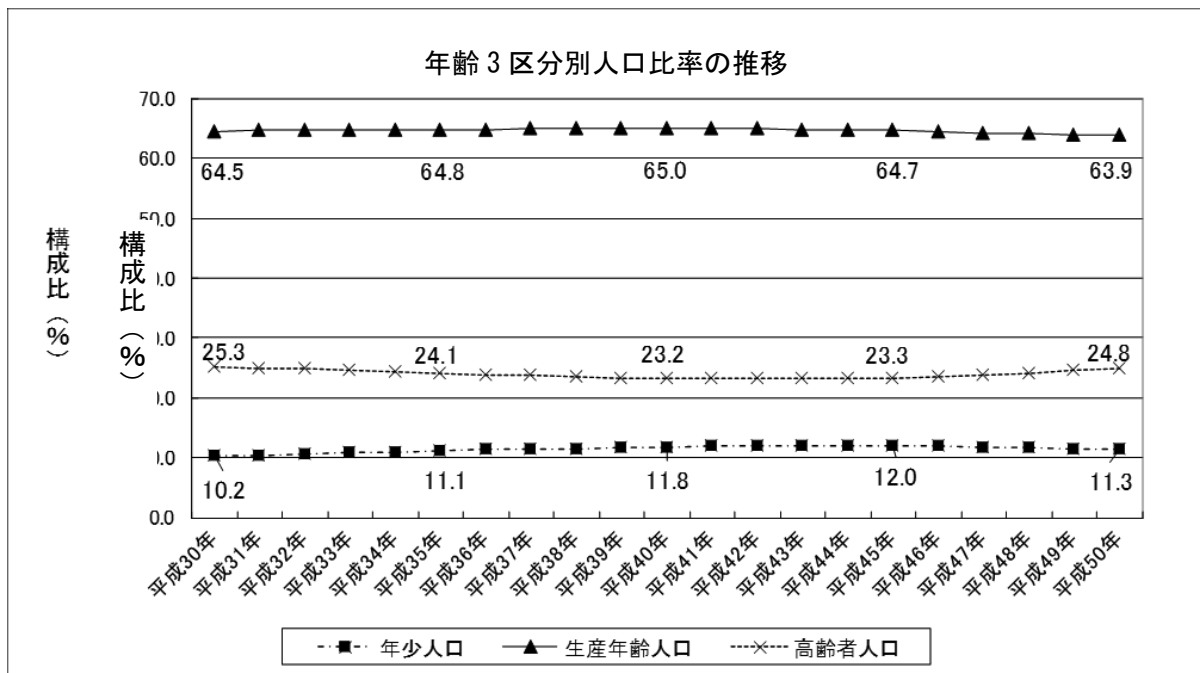
(1) 人口の推移

- 年齢3区分別人口の推移をみると、年少人口（0～14歳）は、平成45（2033）年には43,214人となりピークを迎え、その後減少に転じ、平成50（2038）年には40,366人（平成30（2018）年対比4,835人増）となる。
- 生産年齢人口（15～64歳）は、平成40（2028）年には235,366人となりピークを迎え、その後減少に転じ、平成50（2038）年には227,784人（平成30（2018）年対比3,267人増）となる。
- 高齢者人口（65歳以上）は、平成40（2028）年まで減少を続け、その後は横ばいとなるが、平成45（2033）年以降は増加に転じ、平成50（2038）年には88,541人（平成30（2018）年対比559人増）となる。



(2) 人口比率の推移

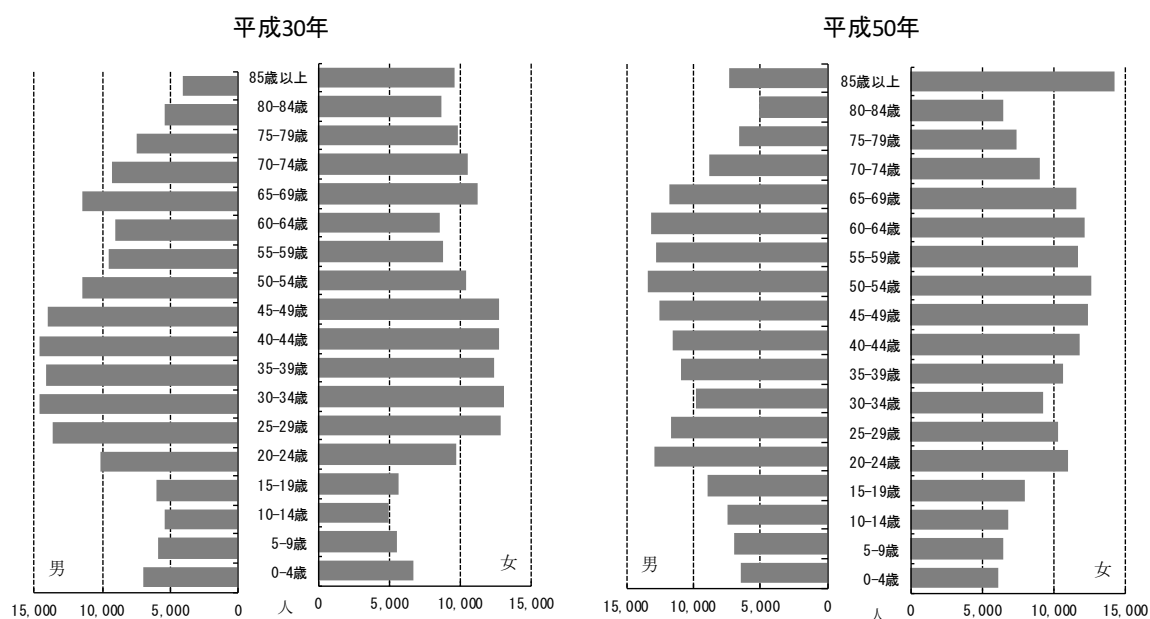
- 年齢3区分別人口比率の推移をみると、年少人口（0～14歳）の構成比は、平成30（2018）年で10.2%であり、15年後の平成45（2033）年には12.0%まで増加するが、20年後の平成50（2038）年には11.3%となる。
- 生産年齢人口（15～64歳）の構成比は、平成30（2018）年で64.5%であり、10年後の平成40（2028）年には65.0%まで増加するが、20年後の平成50（2038）年には63.9%まで減少する。
- 高齢者人口（65歳以上）の構成比は、平成30（2018）年で25.3%であり、10年後の平成40（2028）年には23.2%まで減少するが、20年後の平成50（2038）年には24.8%まで増加する。
- 地区別にみると、平成50（2038）年に最も年少人口比率が高い地区は浮間地区（15.3%）で、最も年少人口比率が低い地区は王子西地区（8.7%）である。
- 地区別にみると、平成50（2038）年に最も生産年齢人口比率が高い地区は滝野川東地区（70.2%）で、最も生産年齢人口比率が低い地区は赤羽西地区（59.1%）である。
- 地区別にみると、平成50（2038）年に最も高齢者人口比率が高い地区は赤羽西地区（28.9%）で、最も高齢者人口比率が低い地区は滝野川東地区（19.5%）である。



4. 人口ピラミッド

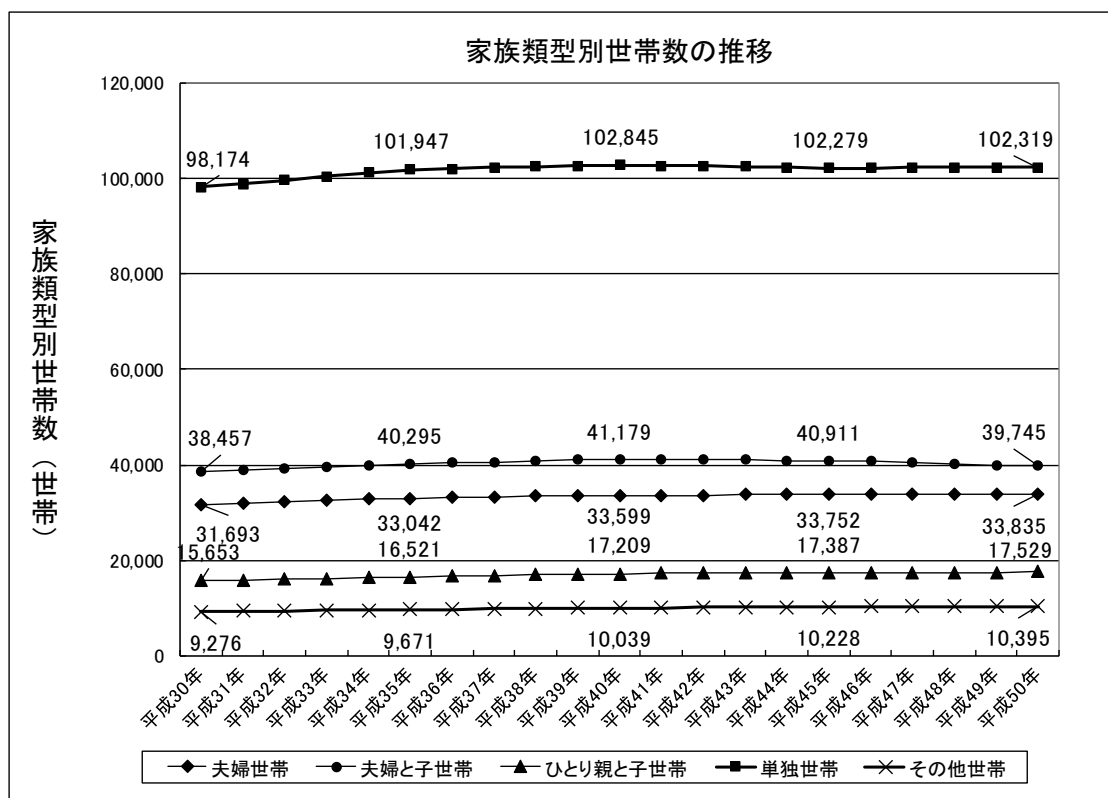
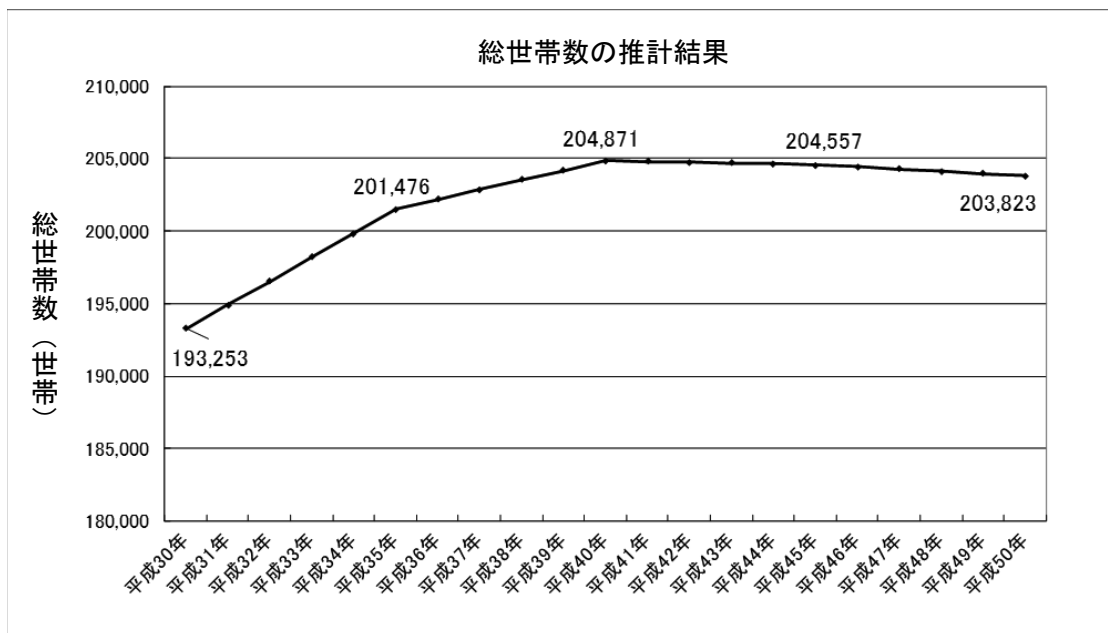
- 平成 30（2018）年に 65～74 歳に含まれる団塊の世代（昭和 22～24（1947～1949）年の出生）が自然減少しながら、平成 50（2038）年で 85 歳以上に移行する。一方、平成 30（2018）年の 55～64 歳の世代は、人口の厚みが薄く、今後 10 年間は高齢化が抑制される要因となる。
- 団塊ジュニア世代（昭和 45～49（1970～1974）年の出生）は、平成 50（2038）年に 64～68 歳になっており、人口に厚みをもっている。また、20 歳代においても外国人の転入による厚みが形成されている。

人口ピラミッドの比較



5. 世帯数の推移

- 北区の総世帯数の推移を見ると、平成 30（2018）年に 193,253 世帯であった世帯数は、10 年後の平成 40（2028）年の 204,871 世帯をピークに、以降は減少局面となり、20 年後の平成 50（2038）年には 203,823 世帯へと減少（平成 30（2018）年比較で 10,570 世帯増加）する。
- 北区の家族類型別世帯数の推移を見ると、夫婦世帯は、今後も増加傾向を示しながら、平成 50（2038）年には 33,835 世帯（平成 30（2018）年比較で 2,142 世帯増加）となる。
- 夫婦と子世帯は、平成 40（2028）年まで増加を続け 41,179 世帯となるが、以降は減少に転じ、平成 50（2038）年には 39,745 世帯（平成 30（2018）年比較で 1,288 世帯増加）となる。
- ひとり親と子世帯は、今後も増加傾向を示しながら、平成 50（2038）年には 17,529 世帯（平成 30（2018）年比較で 1,876 世帯増加）となる。
- 単独世帯は、平成 40（2028）年まで増加を続け 102,845 世帯となるが、以降は減少に転じ、平成 50（2038）年には 102,319 世帯（平成 30（2018）年比較で 4,145 世帯増加）となる。
- その他世帯は、今後も増加傾向を示しながら、平成 50（2038）年には 10,395 世帯（平成 30（2018）年比較で 1,119 世帯増加）となる。



北区人口推計調査報告書（概要版）

平成30年3月

刊行物登録番号
29-1-143

発行 北区政策経営部企画課
北区王子本町1-15-22
電話 03(3908)1104（直通）

調査分析 (株)総合環境計画
江東区牡丹1-14-1
KDX門前仲町ビル
電話 03(5639)1951